

## 本時のねらい

- ・言葉づくりができる。
- ・場所や場面、状況に応じた声の大きさを話することができる。

## 本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・Google Jamboard を用いて、ポインター操作ができる。
- ・ひらがなが書かれた付箋を並び替えたり、文をつったりすることで、語彙力を高めることができる。

## 活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・Google スライド
- ・Google ジャムボード
- ・プロジェクター
- ・スクリーン

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10 分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の見通しをもつ。</li> <li>○スリーヒントクイズをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業者が、Google スライドを用いてクイズを出す。</li> <li>・プロジェクターでホワイトボードに投影する。</li> <li>・スライドを作成する際、分かりやすいように写真やイラストを活用する。</li> </ul>
展開 (25 分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Jamboard を活用し、ビジョントレーニング、聞くトレーニングをする。 【写真 1】</li> <li>・授業者が読んだ文字を聞き、ポインターで印をつける。</li> <li>○ひらがなが書かれた付箋を並び替え、言葉づくりをする。 【写真 2】</li> <li>・複数必要な文字は、付箋に文字入力をして作成する。</li> <li>○完成した言葉を発表する。</li> <li>・できた言葉がわかりやすいよう、発表者はポインターを使って発表する。</li> <li>・出てきた言葉の意味を全員がわかっているか確認する。 【写真 3】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1 人 1 台端末を使うことで、静かな環境で同時に活動できる。</li> <li>・集中して取り組むことができる。</li> <li>・タイピングや手書き入力で作成できる。</li> <li>・間違えても、すぐに消すことができるので取り組みやすい。</li> <li>・プロジェクターを使い、共有する。</li> <li>・発表を集中して聞けるよう、発表者以外はタブレット端末を閉じる。</li> </ul>
まとめ (10 分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○完成した言葉を使って文づくりをする。</li> <li>・ペンを使って書いたり、付箋に入力したりして文づくりをする。</li> <li>○完成した文を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のページを開いて、できた言葉を振り返りさせる。</li> <li>・プロジェクターを使い、共有する。</li> </ul>

## 1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】 ビジョントレーニングをする様子



【写真 2】 言葉づくりをする様子



【写真 3】 完成した文を発表し、言葉の意味について話し合う様子

## 児童生徒の反応や変容

- ・1 人 1 台端末を使うことで、集中して活動に取り組むことができた。
- ・間違えて書いたり、入力したりしてもすぐに消すことができるので、進んで活動する姿が見られた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・付箋の並びかえが簡単にできるので、意欲的に取り組むことができる。
- ・発表時にポインター機能を使うことで、発表者も聞いている児童も、どの言葉について話しているのかが分かるので視覚支援につなげることができた。